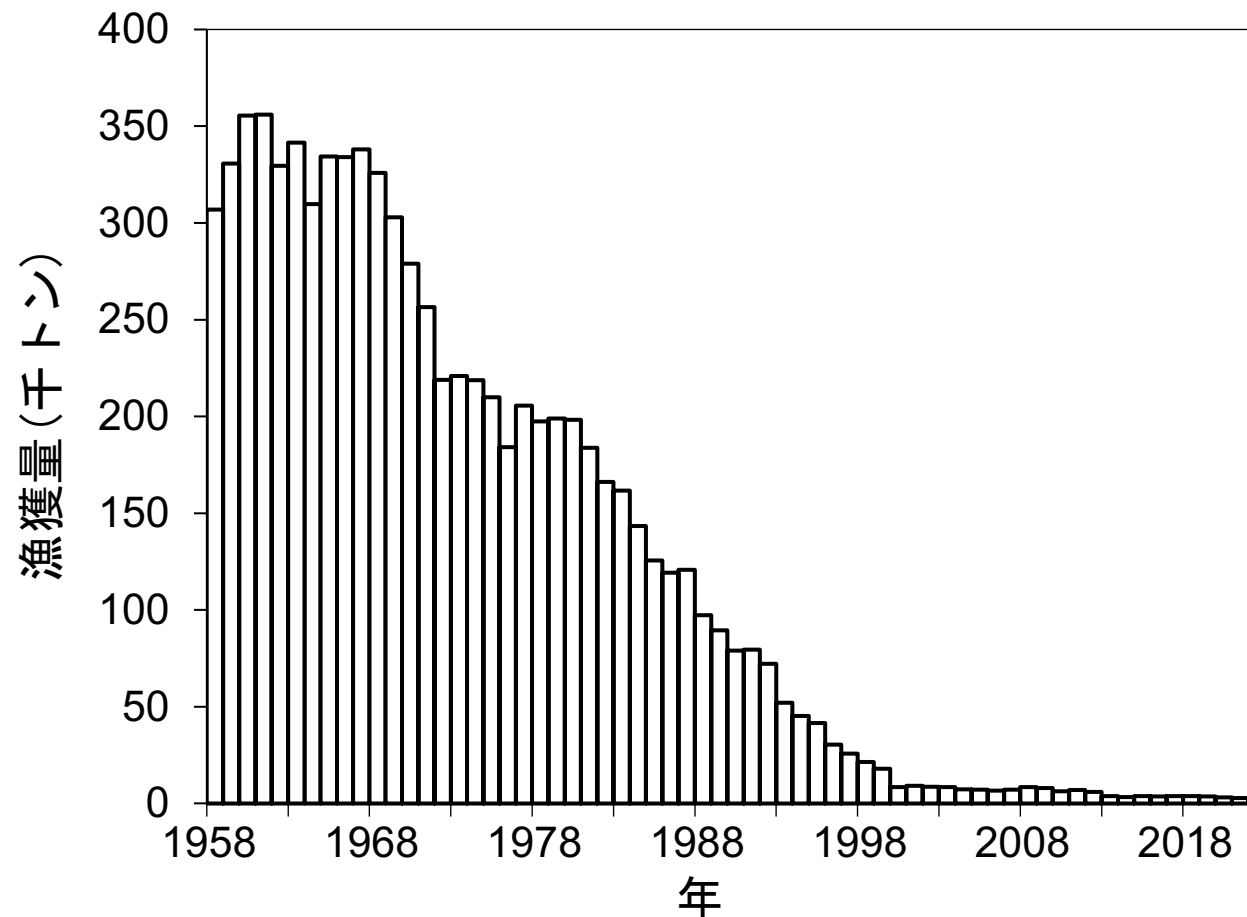




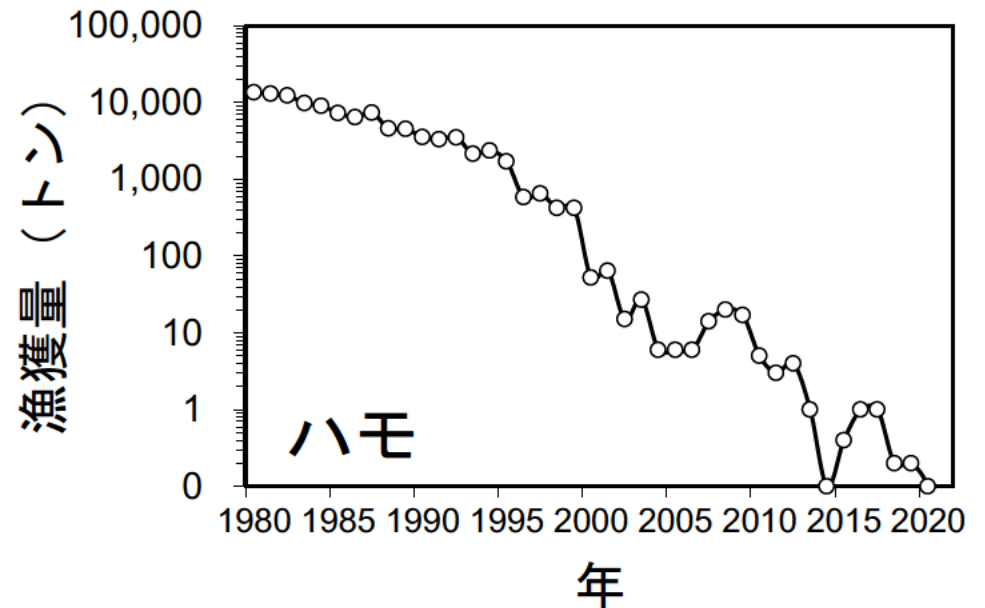
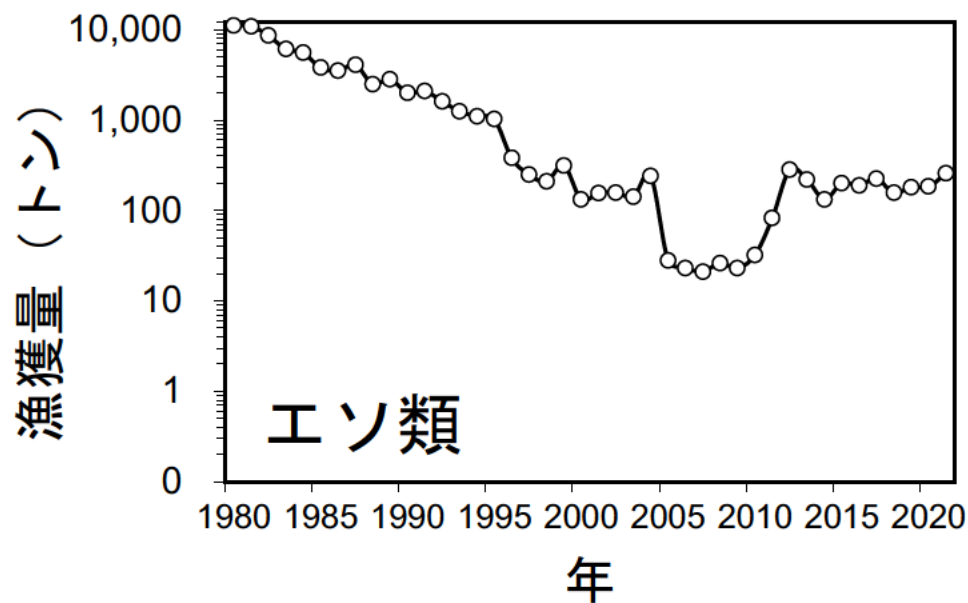
東シナ海底魚類 令和4年度資源評価結果

漁獲の動向①



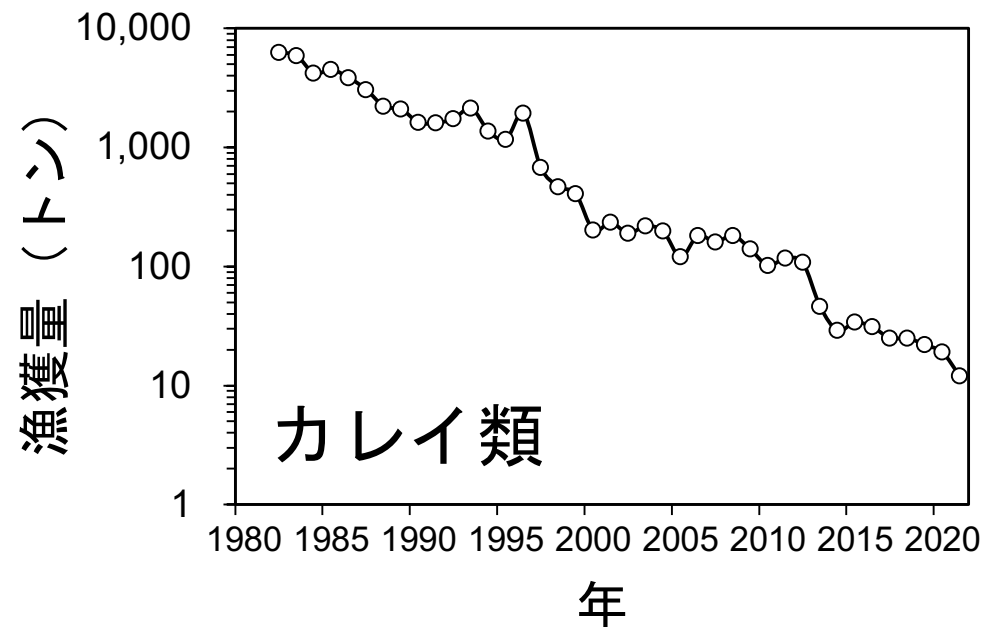
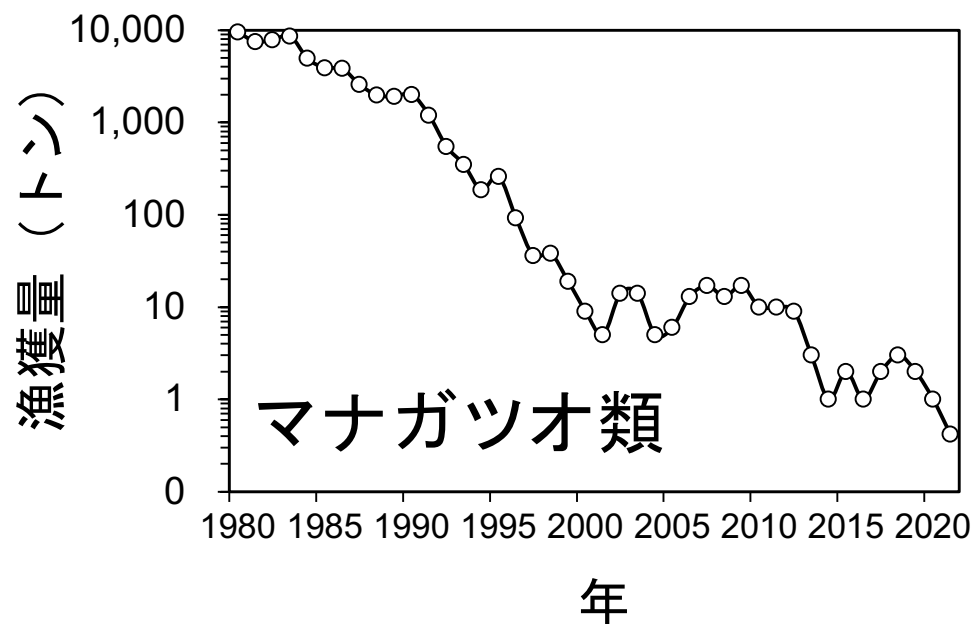
- 以西底びき網漁業の全漁獲量 1960年代は30万トン台で推移していたが以降は減少に転じる
- 2021年の以西底びき網漁業の全漁獲量はおよそ29百トン

漁獲の動向②



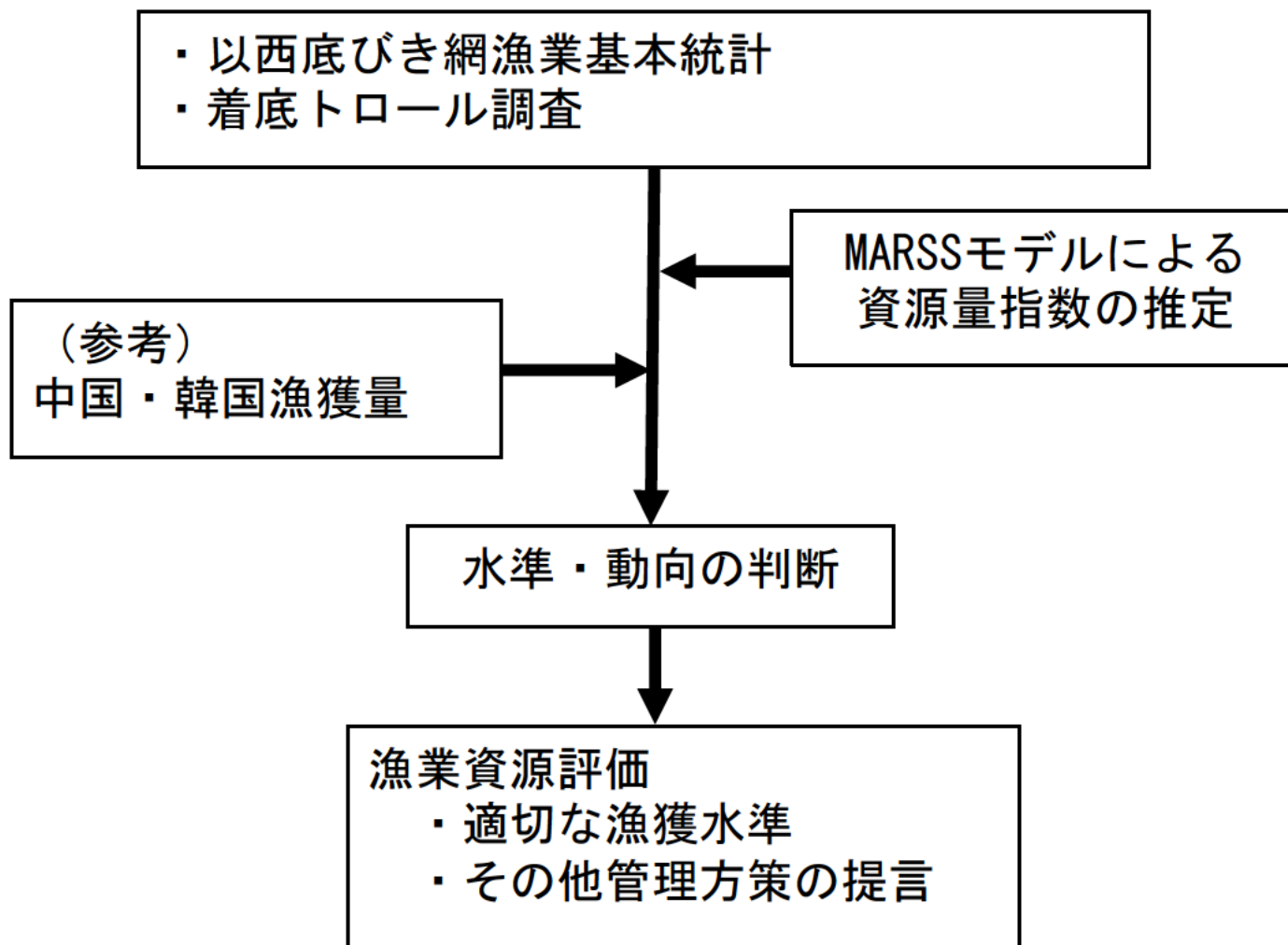
- 2021年の以西底びき網漁業による漁獲量はエソ類（マエソ、ワニエソ、クロエソ、トカゲエソ）：257トン、ハモ：0.0トン

漁獲の動向③

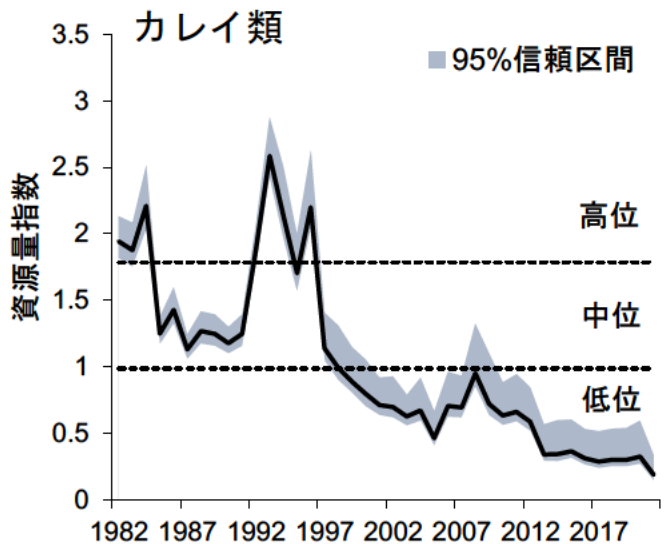
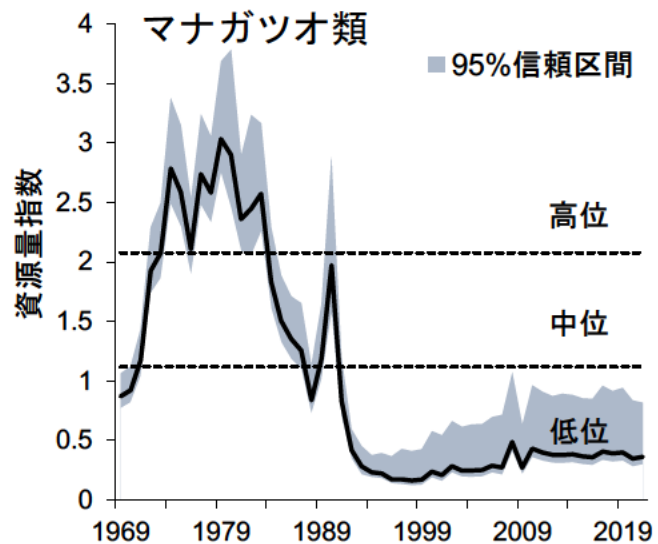
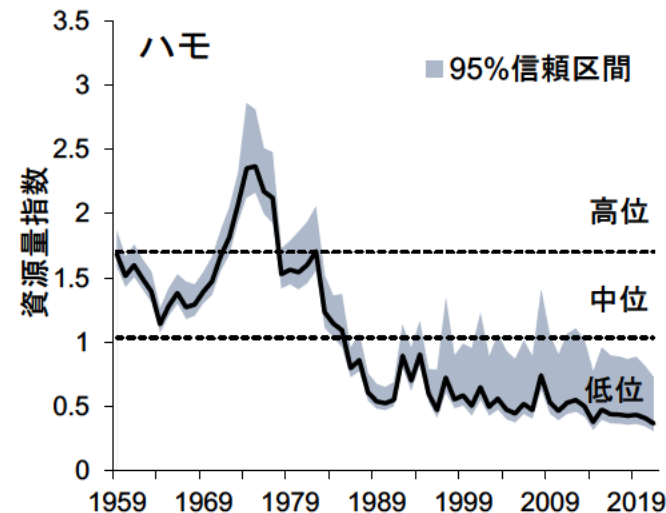
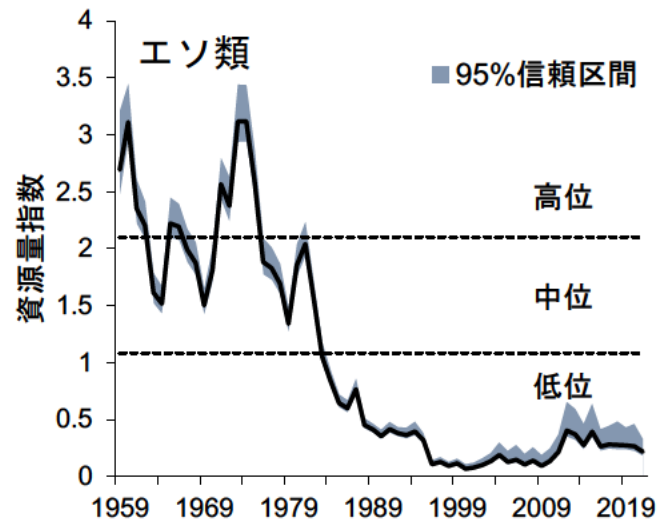


- 2021年の以西底びき網漁業による漁獲量はマナガツオ類（マナガツオ、コウライマナガツオ）：0.4トン、カレイ類（メイタガレイ、ナガレメイタガレイ、ムシガレイ）：12トン

資源評価の流れ



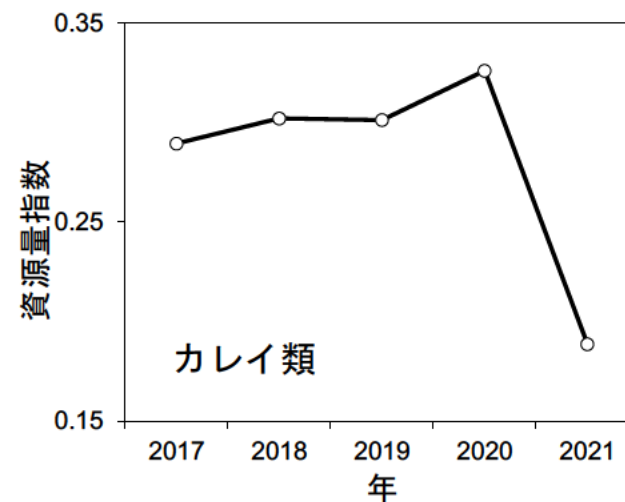
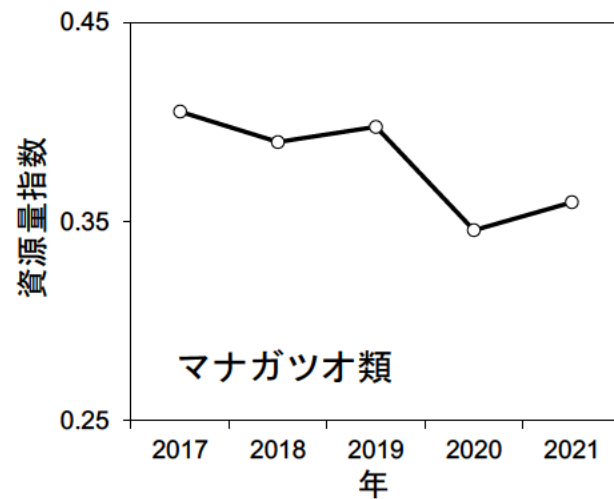
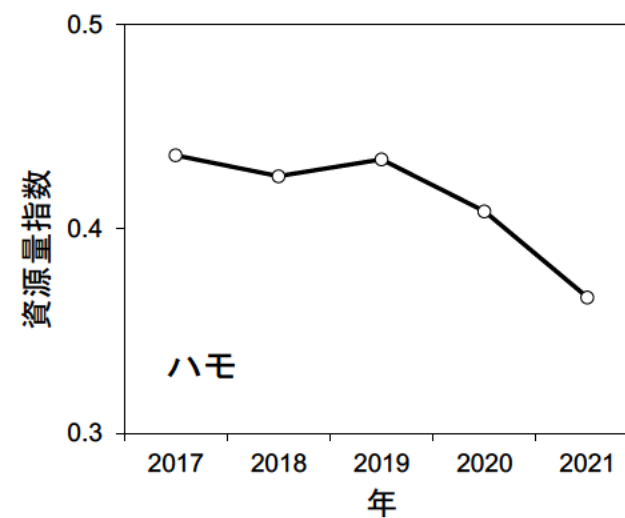
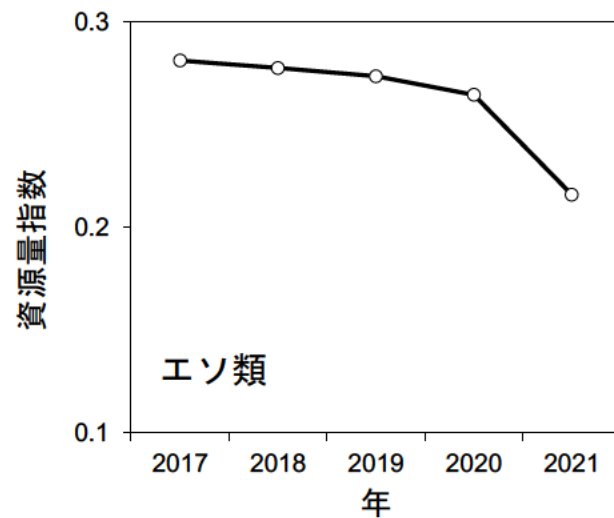
資源の動向①



※水準区分：資源量指数の最高値と最低値の間を三等分し、低位、中位、高位の境界とした

- 資源水準：資源量指数の2021年の値から、エソ類、ハモ、マナガツオ類、カレイ類すべて「低位」

資源の動向②



- 資源動向：直近5年間（2017～2021年）の資源量指数の推移から、エソ類、ハモ、マナガツオ類、カレイ類すべて「減少」

資源評価のまとめ

- 資源の水準および動向は、
 - エソ類 「低位」 「減少」
 - ハモ 「低位」 「減少」
 - マナガツオ類 「低位」 「減少」
 - カレイ類 「低位」 「減少」
- MARSSモデルによる資源量指数の推移に基づいて資源状態を判断した